

ARC report No.681

茨城県経済動向

2018年5月



一般財団法人 常陽地域研究センター

※本資料は、当財団が独自に集計・入手しているデータを除き、

2018年5月24日現在で公に利用可能な統計指標に基づき作成されています

県内経済は、持ち直しの動きが続いている

<ポイント>

1. 生産…………… 3月の鉱工業生産指数(2010年=100)は108.0、前年同月比1.1%減と13ヶ月振りに、出荷指数は105.9、同1.2%減と5ヶ月振りに前年水準を下回った。在庫指数は124.1、同3.3%減と、8ヶ月連続で前年水準を下回った。
2. 民間設備投資… 3月の建築物着工床面積(民間非居住用)は前年同月比110.5%増と、2ヶ月連続で前年水準を上回った。
3. 住宅投資…………… 3月の新設住宅着工戸数は1,279戸、前年同月比25.8%減と、4ヶ月連続で前年水準を下回った。
4. 公共投資…………… 4月の公共工事請負金額は207億21百万円、前年同月比25.3%減と、3ヶ月連続で前年水準を下回った。
5. 個人消費…………… 3月の大型小売店販売額(店舗調整済)は前年同月比0.5%減と、4ヶ月振りに前年水準を下回った。4月の乗用車販売台数(乗用車+軽乗用車)は7,944台、前年同月比9.0%増と、6ヶ月振りに前年水準を上回った。
6. 雇用情勢…………… 3月の有効求人倍率(原数値)は1.65倍、前年同月比0.23ポイント増と、56ヶ月連続で前年水準を上回った。雇用保険受給者数は6,197人、同10.5%減と54ヶ月連続で前年水準を下回った。

<概況>

県内経済は、住宅投資や公共投資など一部の項目には弱さがみられるものの、雇用情勢の好調さが続いており、個人消費にも持ち直しの兆しがみられるほか、中長期的にみた生産活動も堅調に推移していることなどから、総体では持ち直しの動きが続いている。

項目別に概観すると、生産は、好調な外需等を背景に、中長期的にみると持ち直し基調が続いている。民間設備投資は、高速道路のIC付近等で物流施設や工場の増築・建築の動きがみられるほか、企業調査等の各種サーベイの結果からも底堅さが窺える。住宅投資は、貸家の減少等により、四半期ベースの着工総数が17年1-3月期から5期連続で前年水準を割り込むなど、弱含みにある。公共投資は、主力の県発注案件が堅調である一方、ウェイトの高い市町村発注案件が前年水準を大きく割り込むなど、やや弱含みにある。個人消費は、弱含みの状態が続いていた乗用車販売台数、大型小売店販売額(全店ベース)が前年水準割れの状況を脱したほか、専門量販店販売額も概ね好調を維持するなど、持ち直しの兆しがみられる。雇用情勢は、有効求人倍率が高水準を維持しており、正社員に限っても5ヶ月連続で1.00倍を超えるなど、回復している。

先行きは、生産への影響が大きい外需面の動向や、中長期的に見た生産動向、また、気温・天候の変化が個人消費に与える影響などに注視する必要がある。

生産は持ち直している

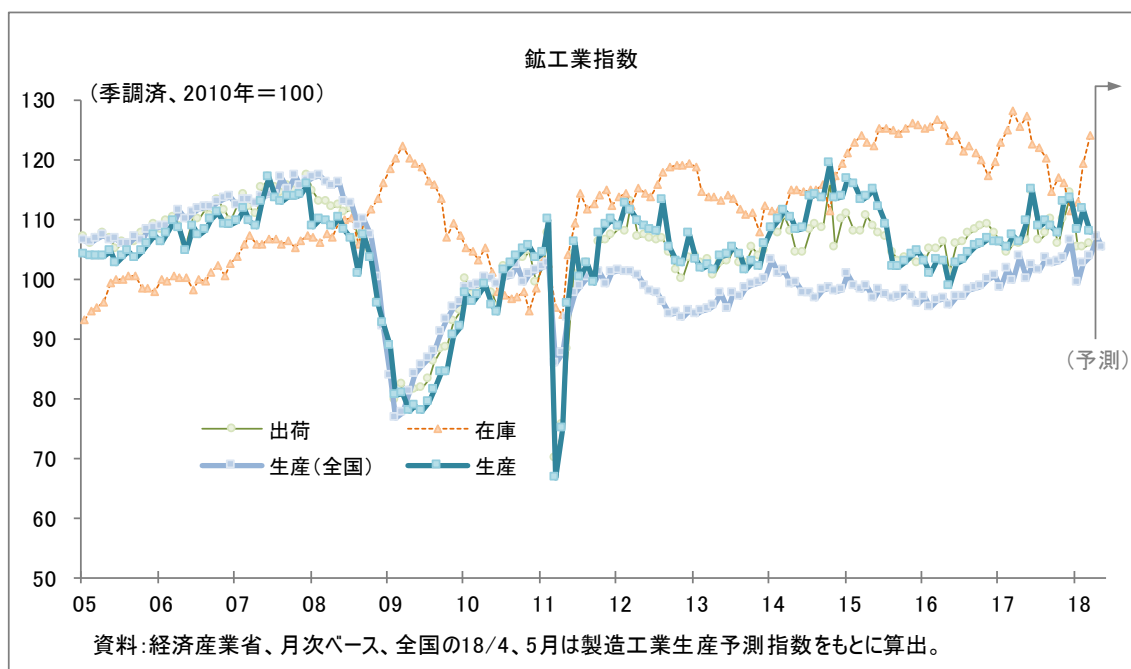
3月の鉱工業生産指数(2010年=100)は108.0、前年同月比1.1%減と13ヶ月振りに、出荷指数は105.9、同1.2%減と5ヶ月振りに前年水準を下回った。また、在庫指数も124.1、同3.3%減と8ヶ月連続で前年水準を下回った。なお、生産指数の減少要因となった業種は、電気機械工業(開閉制御装置等)、窯業・土石製品工業(板ガラス、ガラス短繊維製品等)などとなっている。ウェイトが高いはん用・生産用・業務用機械工業も、はん用機械工業が前年同月比41.5%減となったことなどから、当月は同0.0%と伸びなかった。

ただし、四半期ベースで見ると、生産指数は足元の18年1-3月期まで6期連続で前年水準を上回る等など、堅調に推移している。また、ヒアリングでは、建設機械関連の企業から「18年度の生産台数は増加傾向にある」、工作機械関連の企業から「18年の受注は堅調に推移していくとみている。ただし、外需に左右されやすい業界であるため、19年以降の動向については慎重にみていく必要がある」といった声が上がっている。単月のブレを伴いながらも、少なくとも年内は、生産用機械を中心に、ウェイトの高いはん用・生産用・業務用機械工業がおおむね堅調に推移するものと予想される。

外需に関係する貿易面については、3月の茨城県内税関3支署(鹿島、日立、つくば合計)の輸出額が、前年同月比5.0%減の1,187億円と、17ヶ月振りに前年水準を下回った。支署別にみると、鹿島が石油製品(同16.0%減)等の減少により同0.2%減、日立が自動車(同16.0%減)等の減少により同7.4%減、つくばが荷役機械(同17.7%減)等の減少により同5.7%減と、いずれも前年水準を下回っている。ただし、3月の輸出額は前年水準を割り込んだものの、17年以降は輸出額の水準自体が以前よりも高まっていること等から、基調判断の変更には様子を見る。

以上を総合的にみて、「生産」は「持ち直している」との判断を据え置いた。

先行きは、ウェイトの高いはん用・生産用・業務用機械工業を中心に、中長期的に見た生産動向などに注視する必要がある。



設備投資は底堅く推移、住宅投資は弱含み、公共投資はやや弱含み

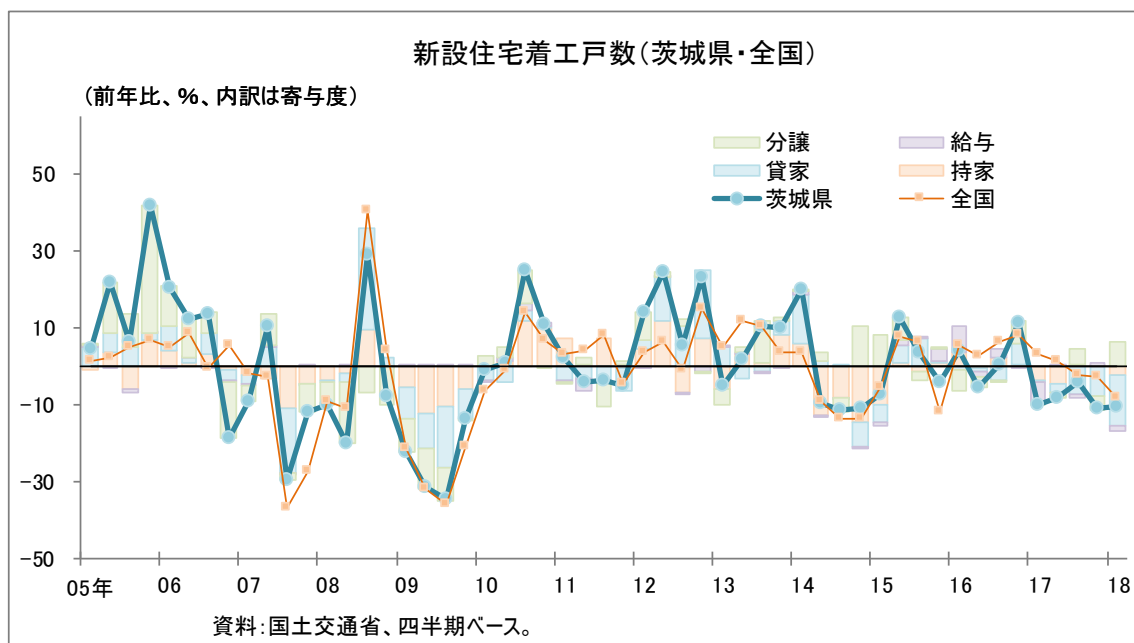
民間設備投資は、3月の建築物着工床面積（民間非居住用）が147千㎡、前年同月比110.5%増と、2ヶ月連続で前年水準を上回った。背景には、北関東自動車道や圏央道のIC付近に位置する、物流施設や工場の増築・建築等があるとみられる。また、各種サーベイの結果からも堅調さが窺える。以上を総合的にみて、「民間設備投資」は「底堅く推移している」との判断を据え置いた。

住宅投資は、3月の新設住宅着工戸数が1,279戸、前年同月比25.8%減と4ヶ月連続で前年水準を下回った。内訳をみると、主力の持家は648戸、同8.6%減と2ヶ月連続で、持家に次いで高いウェイトを占める貸家は364戸、同50.4%減と4ヶ月連続で、分譲住宅は262戸（うちマンション0戸）、同1.1%減と2ヶ月振りに前年水準を下回っている。なお、着工総数は、四半期ベースでも17年1-3月期から5期連続で前年水準を割り込み続けているほか、年度ベースでも、直近の17年度が前年度比8.4%減となるなど、貸家の減少等を背景に、中長期的にも弱含みの状況が続いている。以上から、「住宅投資」は「弱含みにある」と判断を引き下げた。

公共投資は、4月の東日本建設業保証の公共工事請負金額が207億21百万円、前年同月比25.3%減と3ヶ月連続で減少となった。内訳をみると、主力の県発注案件が同11.1%増と7ヶ月連続で前年水準を上回ったものの、ウェイトの高い市町村発注案件が同49.8%減と前年水準を大きく割り込んでいる。以上から、「公共投資」は「やや弱含みにある」との判断を据え置いた。なお、例年、期初には前年度予算分の繰越し発注が行われている可能性がある。18年度予算分の発注動向については、中長期的な目線で注視していく必要があるものと思われる。

以上、投資関連の3項目について、「民間設備投資」は「底堅く推移している」、「住宅投資」は「弱含みにある」、「公共投資」は「やや弱含みにある」と判断した。

先行きは、四半期ベースなど、中長期的にみた各指標の動向などが注目される。



個人消費は持ち直しの兆しがみられる

4月の乗用車販売台数（乗用車新規登録台数+軽乗用販売台数）は7,944台、前年同月比9.0%増と、6ヶ月振りに前年水準を上回った。内訳をみると、小型乗用車のみ2,433台、同0.2%減と6ヶ月連続で前年水準を下回ったものの、普通乗用車は2,663台、同5.4%増と2ヶ月連続で、軽乗用車は2,848台、同22.5%増と3ヶ月振りに前年水準を上回っている。

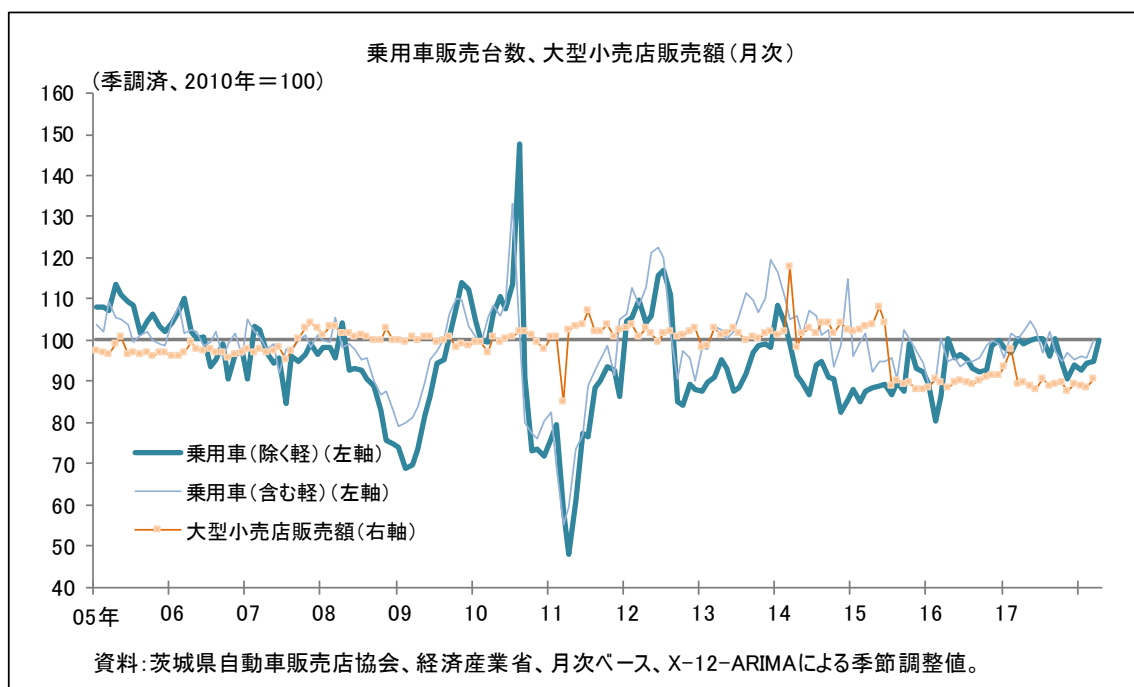
3月の大型小売店（スーパー、百貨店）販売額（速報値）は、既存店ベースでは前年同月比0.5%減と4ヶ月振りに前年水準を下回った一方、開店後1年以内の店舗を含む全店ベースでは、同1.8%増と8ヶ月振りに前年水準を上回った。

専門量販店販売額は、ホームセンターのみ前年同月比5.0%減と3ヶ月連続で前年水準を下回ったものの、家電が同2.0%増と5ヶ月連続で、ドラッグストアが同4.2%増と15ヶ月連続で、コンビニが同2.0%増と5ヶ月連続で、前年水準を上回った。

全体を概観すると、大型小売店販売額（既存店ベース）が前年水準を下回ったものの、弱含みの状態が続いていた乗用車販売台数、大型小売店販売額（全店ベース）が前年水準割れの状況を脱したほか、専門量販店販売額も概ね好調を維持するなど、持ち直しの兆しがみられる。

以上を総合的にみて、「個人消費」は「持ち直しの兆しがみられる」と判断を引き上げた。

なお、3月以降の業況について、大型小売店から「3月は気温が一気に上昇したため、例年より早く春物衣料の動きがみられた。4月は一旦需要が落ち着いたが、一段と気温が上がった5月以降は、夏物衣料の動きが出始めている」と、衣料品需要と気温との関りを指摘する声が上がっている。先行きは、気温・天候の変化が個人消費に与える影響などが注目される。



雇用情勢は回復している

3月の有効求人倍率（原数値）は1.65倍、前年同月比0.23ポイント増と、56ヶ月連続で前年水準を上回った（季調値では1.59倍、前月比0.04ポイント増）。なお、就業地ベースでみると、有効求人倍率（原数値）は1.80倍、前年同月比0.25ポイント増となっている（季調値では1.76倍、前月比0.04ポイント増）。

有効求人倍率（原数値）を雇用形態別にみると、正社員は前年同月比0.19ポイント増の1.05倍と、5ヶ月連続で1.00倍を超える高水準となった。非正規雇用社員（パート、派遣、契約社員等）も前年同月比0.24ポイント増の2.74倍と、好調を維持している。

3月の新規求人倍率（原数値）は2.18倍、前年同月比0.46ポイント増と、25ヶ月連続で前年水準を上回った（季調値では2.43倍、前月比0.34ポイント増）。

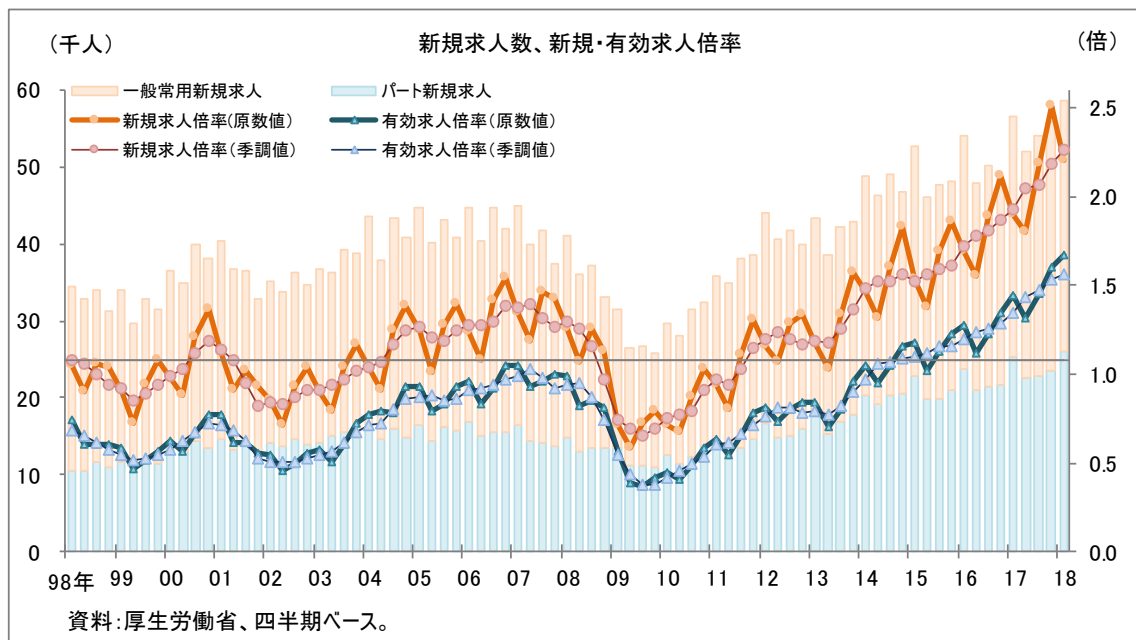
3月の新規求人数（パートを含む）は21,205人、同13.2%増と、3ヶ月振りに増加した。内訳を雇用形態別にみると、常用的パートの求人は同20.8%増、パートタイムを除く常用労働者の求人は同7.3%増などとなっている。

なお、一般新規求人数（パートを除く）を産業別にみると、増加となった主な業種は、生活関連サービス業・娯楽業（前年同月比26.6%増）、卸売業・小売業（同26.5%増）、教育・学習支援業（同21.3%増）、運輸業・郵便業（同19.7%増）などとなっている。

3月の新規求職者数は9,727人、前年同月比10.7%減と18ヶ月連続で減少した。失業者を示す雇用保険受給者数は6,197人、同10.5%減と54ヶ月連続で減少した。

以上を総合的にみて、「雇用情勢」は「回復している」との判断を据え置いた。

先行きは、労働人口の減少等により労働需給の逼迫が進む中、県内の事業者においても、ベースアップや夏季賞与の増額等、賃金面の待遇改善が進むのか、また、労働時間短縮などの雇用環境の改善が進むのか、といった点が注目される。



ARC report 茨城県経済動向 基調判断の推移

日時		タイトル
2015年	10月	県内経済は、持ち直しの動きがみられる
	11月	県内経済は、持ち直しの動きに足踏みがみられる
	12月	県内経済は、持ち直しの動きに足踏みがみられる
2016年	1月	県内経済は、持ち直しの動きに足踏みがみられる
	2月	県内経済は、足もとでやや弱含みの兆しがみられる
	3月	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	4月	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	5月	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	6月	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	7月	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	8月	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	9月	県内経済は、一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きが続いている
	10月	県内経済は、緩やかに持ち直しの動きが続いている
	11月	県内経済は、緩やかに持ち直しの動きが続いている
	12月	県内経済は、緩やかに持ち直しの動きが続いている
2017年	1月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	2月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	3月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	4月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	5月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	6月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	7月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	8月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	9月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	10月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	11月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	12月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
2018年	1月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	2月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	3月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	4月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている
	5月	県内経済は、持ち直しの動きが続いている

ARC report 茨城県経済動向 各指標の動向判断の推移

		生産	住宅	設備投資
2017年	1月	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	底堅く推移している
	2月	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	底堅く推移している
	3月	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	底堅く推移している
	4月	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	底堅く推移している
	5月	持ち直している	底堅く推移している	底堅く推移している
	6月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	7月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	8月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	9月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	10月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	11月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	12月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
2018年	1月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	2月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	3月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	4月	持ち直している	足踏み状態にある	底堅く推移している
	5月	持ち直している	弱含みにある	底堅く推移している

		公共投資	個人消費	雇用
2017年	1月	足踏み状態にある	下げ止まっている	持ち直し傾向が続く
	2月	足踏み状態にある	下げ止まっている	持ち直し傾向が続く
	3月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	4月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	5月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	6月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	7月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	8月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	9月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	10月	足踏み状態にある	底堅く推移している	持ち直している
	11月	下げ止まりの兆しがみられる	底堅く推移している	持ち直している
	12月	下げ止まりの兆しがみられる	足踏み状態にある	持ち直している
2018年	1月	下げ止まっている	足踏み状態にある	回復している
	2月	下げ止まっている	足踏み状態にある	回復している
	3月	やや弱含みにある	足踏み状態にある	回復している
	4月	やや弱含みにある	足踏み状態にある	回復している
	5月	やや弱含みにある	持ち直しの兆しがみられる	回復している